

## JST、さくらサイエンスクラブ 第3回「マレーシア同窓会」 「マレーシアアラムで現地開催

科学技術振興機構(JST)と、JSTが主催する国際青少年交流事業「さくらサイエンスプログラム(SSP)」にマレーシアから参加した若者で構成するMASSA(Malaysia Alumni of Sakura Science Association)は7月22日、マレーシア・クアラルンプール近郊のシャアラムで第3回MASSA同窓会を開催した。

当初クアラルンプール開催の予定だったが、同日に日本人会主催(日本大使館共催)の「BONNODORI(盆踊り)」イベント



全員で記念撮影



高橋克彦大使のビデオメッセージを聴く参加者

がシャアラムの競技場で開催されるため、これに参加希望の同窓生らの希望で競技場近くの会場での開催となった。  
同窓会のテーマは「Celebrating Friendship and Expanding Partnerships」。当日朝は雷雨という天候で、参加者の減少が危ぶまれたが、多少の遅れはあったもののマレーシア国内から総勢78名の出席があった。また、事務局が用意した浴衣を幹事団が着用し大いに盛り上がった。今回のプログラムは、楽しみながらより交流を深めようという趣旨で進

### ■ 同窓会概要

マレーシア同窓会幹事長のシャキィラ氏による開会の言葉の後、日馬友好議員連盟会長の古屋圭司衆議院議員およびベトナム日本大使館の高橋克彦大使からのビデオメッセージにより、日本とマレーシア間の更なる関係強化に向けた活動支援、SSPおよび同窓生の今後を期待する旨の挨拶があった。

その後、日本学生支援機構(JASSO)マレーシア事務所のレイモンド氏から、日本留学に関しての情報提供(各種奨学金、日本留学試験概要や訪日ベトナム人学生の実績・動向等)が行われた。

次に同窓生である3名の幹事から、日本での「留学、研究活動、文化とのふれあい」「日本との共同研究」「日本語能力をどのようににキャリアに活かすか」などそれぞれの体験を発表した。

講演の合間に、進行役より携帯アプリを使って日本やSSPに関するクイズを行い、会場は大いに盛り上がり、上位5名に日本の風景が描かれた大判チーフが贈られた。また事前に、日本に関連するショートビデオを募集してSNSにアップし、当日までに集めた「いいね」の数で競うビデオコンテストを行い、上位5名にさくら模様の大判チーフがJSTの伊藤SSP副本部長から手渡された。

交流セッションでは、直近で来日していた高校生をはじめ、マレーシア政府教育省からの来賓や、多くの同窓生が自由に交流する場所となり、会話が弾み、あつという間に時間が流れた。

### ■ 参加した同窓生のコメント

参加した同窓生からは、「今回のような形式はとても楽しかった」「スピーカーの経験談は興味深くなった」「日本で着ることができなかった浴衣を着ることができてうれしかった」「楽しかった。次回もまた参加したい」などのコメントが多く寄せられた。